

関係機関長殿

沖縄県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

みだしのことについて、沖縄県病害虫発生予察事業実施要領に基づき、注意報第3号を発表したので送付します。

平成17年度病害虫発生予察注意報第3号

- 1 病害虫名 ミナミキイロアザミウマ
- 2 発生地域 沖縄本島北部
- 3 作物名 すいか
- 4 発生程度 多
- 5 注意報発令の根拠

- 1) 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.03頭(前年0.01頭以下、平年0.01頭以下)と平年より多かった(図1)。
- 2) 育苗施設における株当たり成虫数は0.08頭(前年0.03頭)と前年より多く、寄生株率は3.8%(前年1.6%)、発生施設率は75%(前年33%)と前年より高かった。
- 3) 一部圃場および育苗施設で、本種が媒介するスイカ灰白色斑紋病の発生が見られた。

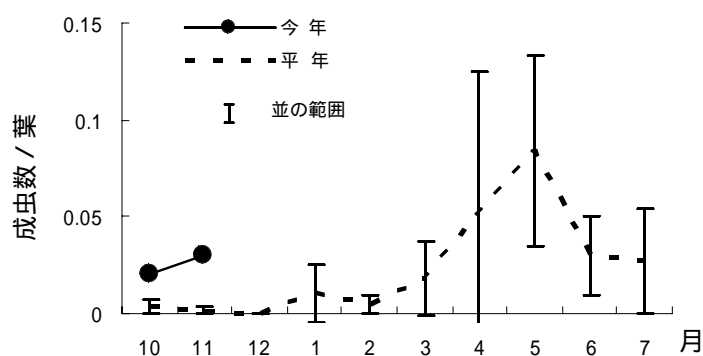


図1 すいかにおけるミナミキイロアザミウマの発生推移



6 防除上注意すべき事項

<<育苗施設>>

- 1) 施設の出入口には防虫ネット等によるカーテンを設置する。
- 2) ミナミキイロアザミウマの蛹は施設内の土壌やゴミの中に潜むので、マルチ上はきれいに保ち、土壌を散乱させない。
- 3) 他の作物の苗を一緒にしない。
- 4) 不要となった苗や残渣は、早めにビニール袋等に入れるなどして施設から持ち出し処分する。
- 5) ミナミキイロアザミウマの防除のため粒剤を施用する。
- 6) ミナミキイロアザミウマに寄生された葉は表面にケロイド状やかすり状の傷がつき、裏面は光沢を帯びていることが多いので、日ごろから観察し発生の有無に注意する。

<<栽培施設>>

- 1) 健全苗を植え付ける。
- 2) ミナミキイロアザミウマ防除のため定植時には残効性の長い粒剤を施用する。また薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤は連用しない。
- 3) ミナミキイロアザミウマ成虫の飛来侵入を防ぐため、近紫外線除去フィルムやシルバーポリマルチを利用する。また、および入口、天窗、側窓には防虫ネット等を張る。
- 4) すそや側窓からの蔓や葉の露出は、ミナミキイロアザミウマの繁殖場所となるだけでなく、施設内の出入りを容易にするため、すそや側窓は閉じる。